

### 分科会の目的

IR先進国では、IRを観光・インバウンド促進策としてだけでなく、広域開発の核として位置づけ、まちの回遊性やブランド力を高めることに成功

大阪においてもIRをインセンティブとしたベイエリア再開発が発展の鍵

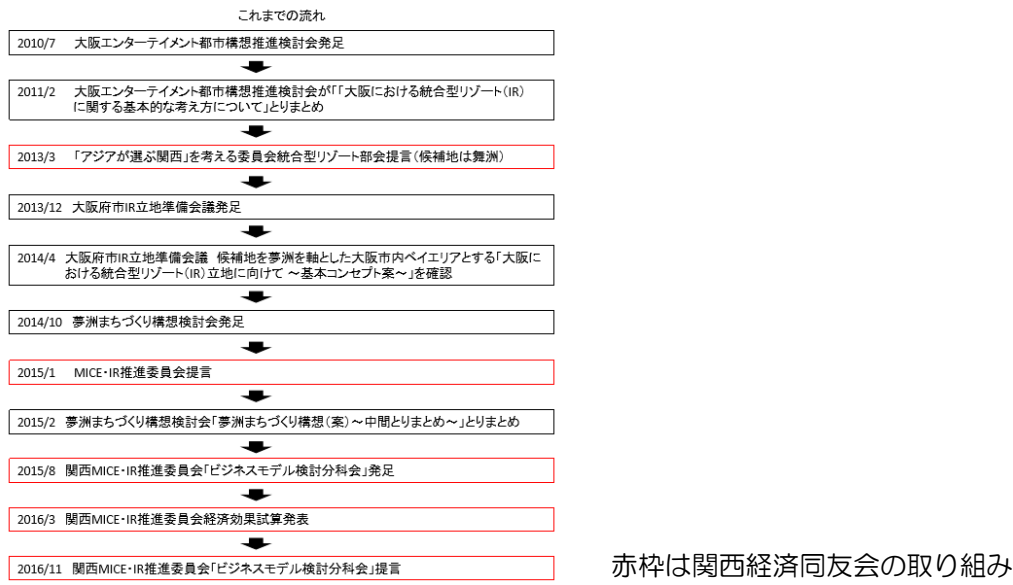
海外事業者主導になりがちなIR導入において、地元企業を中心とするステークホルダーが「我がまちづくり」の方向性を明確に示し、そのベース上にIRを位置付けるため、基盤整備のより具体的、現実的な方策を検討した

### 提言構成

### 「夢洲開発を核とした官民連携によるベイエリアの継続的发展」に対する提言

### 第1章/はじめに

### 第2章/IRに対するこれまでの取り組み 大阪府・市および関西経済同友会での取り組みまとめ

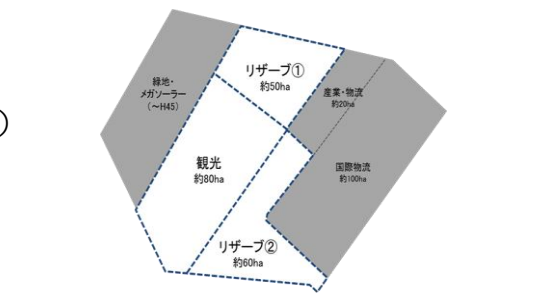


### 第3章/本分科会の役割

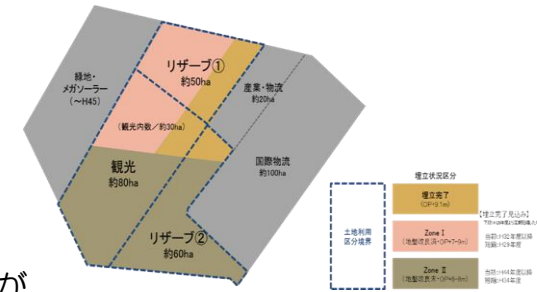
関西経済同友会がこれまで行った2つの提言では、大阪・関西IRの役割やコンセプト、必要と思われる機能について検討を行ってきたが、これらは、埋立や交通など基本的な基盤整備が完了していることを前提としており、その方法については十分に議論されていない。本分科会では、候補地選定の前提となる埋立や交通インフラの整備、また企業を誘致するための基本的な条件(土地価格や処分方法、面積・区画など)について、課題整理と導入までの具体的な流れや方法について検討することを目的とした。

### 第4章/課題

- ①マスタープラン(グランドデザイン)の不在
  - ▶混在する用途・ゾーニング
  - ▶ベイエリア全体との未調整(舞洲・咲洲ほか)
  - ▶MICE等市内施設との配置戦略の欠如
- ②脆弱な交通インフラ
  - ▶いくつかの整備案が検討されているが、決定していない
- ③埋立・基盤整備の遅れ
  - ▶埋立途上
- ④IR開発条件・方針の不在
  - ▶IR開発用地の区画、面積、処分方法(分譲・賃貸)、地代が全て未定
- ⑤行政上の問題
  - ▶府市および市各局の役割分担は決まっているが、横断する課題に対する意思決定プロセスが不明確



夢洲まちづくり構想検討会ゾーニング案



埋立状況と今後の予定

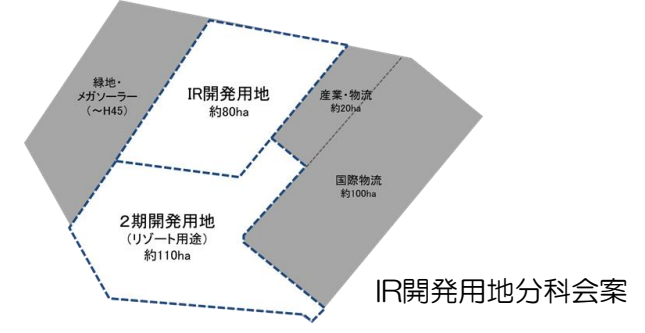
### 第5章/提言

#### 【提言1】夢洲基盤整備方針の早期決定

- ①官民連携による夢洲・ベイエリアのグランドデザインの作成
- ②多段階に渡る夢洲開発の最終形を想定した基盤整備の実施
- ③官による基盤整備へのファイナンス手法の検討

#### 【提言2】IR開発基本条件の設定(推進法案成立前)

- ①北側最大80haをIR開発用地にする
- ②夢洲の未利用地190haを観光・リゾートゾーンとして保全
- ③IR開発用地を先行開発地とする多段階開発
- ④IR開発用地の区画、面積、処分方法等の基本方針を推進法案成立までに確定
- ⑤将来性や広域アクセスに考慮した交通インフラ整備の目処



IR開発用地分科会案

#### 【提言3】官民連携による夢洲・ベイエリアの継続的发展を図る

- ①エリアマネジメントに、民間のノウハウを導入
- ②夢洲まちづくり構想検討会をより実効性のある組織に発展させる